

第15回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和7年12月19日（金）
開会14時00分 閉会14時46分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 教育長 中村 正芳
委員（教育長職務代理者） 上地 玲子
委員（教育長職務代理者） 服部 俊也
委員 梶谷 俊介
委員 田野 美佐
教育次長 後藤 博幸
教育次長 佐々木 亨
学校教育推進監 室 貴由輝
教育政策課 課長 小林 伸明
副課長 小野 敏靖
総括副参事 滝澤 容彦
財務課 課長 青木 弘明
高校魅力化推進室 室長 藤原 紳一
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
（1） 令和7年11月岡山県議会定例会提出案件について
（2） 令和7年度11月補正予算（追加分）について
（3） 進学希望状況第一次調査結果について
- 6 その他
- 7 議事の概要

開会

非公開案件の採決
（教育長）

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

報告事項（１）令和７年 11 月岡山県議会定例会提出案件について

・教育政策課長から資料により一括説明

(委員)

教職調整額について、一気に 10%に上げるのではなく段階的に上げるのはなぜか。

(教育政策課長)

文科省が財務省と調整した結果、法律でそのように定められており、自治体もそれに準じる形となっている。

(教育長)

1%上げることでの金銭的な影響はどのくらいあるのか。

(教育政策課長)

1%の引き上げで、1～3 月の総額は約 1 億 4,000 万円の増額となる。最終的な 10%引き上げ時には、年間で約 45 億～46 億円の増額となる見込みだ。個人単位では、1%の引き上げで月額約 4,000 円程度の増額になる。

教職調整額はこれまで長らく据え置かれてきた。今回の改正は、義務教育等教員特別手当で学級担任への加算措置が新設されたことを含め、専門職にふさわしい処遇改善に向けた大きな一歩である。

(教育長)

教職調整額が 10%になると、時間外在校等時間にするとおおよそ何時間程度になるか。

(教育政策課長)

10%の教職調整額については、超過勤務手当が支給されないという教員の勤務の態様の特殊性や、財源等の状況を踏まえて、国において決定されたものであり、時間外在校等時間に対応したものではないと国が整理しているため、時間に換算するような議論にはなじまないと考えているが、時間に換算するとなれば 20 時間程度である。

教員の長時間労働が教員志望者の減少につながっていることを踏まえ、今後は過労死防止策等を講じ、誰もが働きやすい環境を整備していくべきだと考えている。

(委員)

教員の賃金のベースアップと民間企業のベースアップとの比較はどのようになっているのか。

(教育政策課長)

公務員には争議権がないため、人事委員会が民間との較差を見て勧告を出している。今年のベースアップは2.87%で、昨年も2.7%程度。ボーナスも4.65ヶ月分(+0.05)に引き上げている。

優秀な人材を確保するために、教育職は行政職よりも給与は高く、手当等も手厚い。

報告事項(2) 令和7年度11月補正予算(追加分)について

・財務課長から資料により一括説明

(質問なし)

報告事項(3) 進学希望状況第一次調査結果について

・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

岡山朝日高校の定員割れについて、対策はなにかあるのか。

(高校魅力化推進室長)

岡山朝日高校は県内唯一の独自入試を行っているが、中学生の減少に伴い、独自入試を受検しようとする者も減っている。独自入試をやめれば傾向は変わるかもしれない。

(委員)

募集定員を減らすことも検討すべきではないか。

(高校魅力化推進室長)

入試の結果次第では、検討も必要だと考えている。

(委員)

定員を割っていても「全員入れる」わけではないという認識で良いか。

(高校魅力化推進室長)

定員を割っている時に安易に不合格にするということがあってはならないが、各学校・学科の特色に配慮しつつ、校長が総合的に判断して可否を決定しているものであり、不合格となることはあり得ると考えている。

(委員)

中退率の高い学校が分かる資料はあるのか。

塾などで「中退者が多いから他校にしろ」という噂が保護者間で広がっている学校があると聞いたが、事実なのか。

(高校魅力化推進室長)

個別の中退率は公表していないが、学校間の差はある。勉強が得意な生徒であつても、高校入学後、生徒同士で切磋琢磨する中でしんどくなる生徒がいるのは事実である。

(委員)

私立希望者が 3,243 人と急増している背景はなにか。

(高校魅力化推進室長)

私学専願で出願しようと考えている生徒が増えていると受け止めている。その理由として、高校授業料の無償化はあると考えている。

(委員)

子供たちの進路選択が偏る可能性や、選択肢が限定されることへの懸念がある。高校の魅力化を進めるとともに、子どもたちが幼少期から将来の希望を明確にし、自らの意思で進路を選択できるよう支援すべきだ。安易な高校統合は避けるべきであり、慎重に検討してほしい。

(高校魅力化推進室長)

周辺部の高校の一部には、厳しい状況下でも希望者が増加しているところもある。

これは、小学校・中学校段階から地域ぐるみで地元高校への進学を「押し付ける」のではなく、地域と一体となった教育活動を通じて、生徒が自ら地元高校への進学を希望する気持ちを育んでいるためと考えられる。

(教育長)

第 2 回の進学希望状況調査はいつか。

(高校魅力化推進室長)

1 月 26 日に報道発表予定であるが、その前に、特別入学者選抜志願者数の発表がある。

(委員)

総合学科の志願が低いようだが、メッセージの出し方に違いがあるのか。

(高校魅力化推進室長)

県内の総合学科は 4 校で、いずれも定員は 120 名である。そのうち 2 校については、多様な生徒を受け入れ、一定の生徒を確保している。その他の 2 校については、工業系、農業・林業・自動車系と、それぞれ特色ある教育課程を持っているが、これらの学校は周辺地域に位置することもあり、全体的な生徒の希望者減の傾向に歯止めがかかっていない状況である。これは総合学科の分かりにくさというより、全体の中卒者減の影響が大きいと見ている。

一方、普通科の定員が大きく減少したのは、私立高校の多くが普通科であることと、授業料無償化の影響があると考えている。

(委員)

私立高校の方が魅力的に見えているのか。

(高校魅力化推進室長)

県立高校の魅力の一つとして、これまで『学費の安さ』があったことは否定できない。そこで、私立高校の授業料無償化が打ち出されたことで、その優位性は相対的

に薄れてきていると感じる。保護者や中学生の立場からすると、授業料無償化による経済的負担の軽減にはやはり強く惹かれる部分があると思う。

また、早く合格を決めたいという思いや、施設・設備の魅力も強く、こうした要因が複合的に作用し、私立高校への志望が増加している状況は否めないと考えている。

(委員)

再編整備の対象となっている、笠岡地域と真庭地域の今後について教えてほしい。

(高校魅力化推進室長)

笠岡地域および真庭地域については、昨年度末に再編整備アクションプランを決定し、現在は再編整備検討プロジェクトチームにて検討を進めている段階である。すでに再編整備を検討するフェーズに入っているため、今回の希望者数などの数字をもって、計画を中止したり、あるいは加速させたりといったことは考えていない。

(委員)

アクションプランの成果はでているのか。

(高校魅力化推進室長)

真庭地域においては、現在アクションプランを進めている中ではあるが、真庭市が基金を積んで学校を精力的に応援してくれており、海外留学などが、大きな魅力として生徒や保護者に響いていると感じている。

また、笠岡地域でも、笠岡市教育委員会が非常に協力的であるが、この地域には私学が近くにあり、今回の授業料無償化も相まって、厳しい状況にあると感じている。

(委員)

倉敷鷺羽高校の今後について教えてほしい。

(高校魅力化推進室長)

倉敷鷺羽高校については、現在の希望者数が102人となっており、昨年の調査時の103人という状況から、ほぼ横ばいで推移している。生徒募集においては、地元中学校に足を運ぶなど、学校として熱心に取り組んでいる。

(委員)

学校の魅力をどのように発信していくか、また地元で根差したものとして何が必要なのかは、やはり課題としてあると考える。特に、地元で学校があるにもかかわらず、地元の子どもたちが通わず、かなりの時間をかけて遠方の学校へ通学するという状況が見られる。その背景にある心理、なぜわざわざ遠方へ行くのかという点を深く掘り下げ、高校として、どのように学校を魅力的にしていけるかが今後の大きな課題であると感じる。

(学校教育推進監)

学校規模が小さくなると、生徒間の人間関係が非常に見えやすくなるという側面がある。例えば「あの子が行くなら行きたくない」「この子が行くなら行こう」といった、中学校からの人間関係が高校選択に大きく影響することがあり、特に周辺エ

リアに行けば行くほど、そういった影響を受けやすいと感じている。規模が小さくなればなるほど、学びの内容だけではなく、人間関係といった外部の要素が学校選択に出てくるため、小規模校、特に周辺エリアの学校においては難しい部分がある。

都市部の学校であれば、その学びを求めて生徒が多く集まる傾向にあるが、周辺エリアでは学びだけで選ばれないケースも出てくる。したがって、魅力づくりを考える際には、単に学びの内容を充実させるだけでなく、人間関係など他のケアも必要であると強く感じている。

閉会